

## 京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 27 日 (月) 午後 7 時 32 分～午後 9 時 00 分
- 2 開催場所 浜詰農業団地センター 2 階 会議室
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、和田市民部長、渡部企画総務部長、藤原財務部長、水野教育次長、藤村企画政策課長、岸本網野市民局長、谷口網野市民局課長補佐、増田学校教育課長、数多教育総務課長補佐、小西指導主事、中島学校教育課主任、坪倉教育総務課主任 16 名  
地元出席者 54 名
- 4 内 容
  - (1) あいさつ
  - (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画 (素案)  
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案)
  - (3) 質疑応答

### 5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画 (素案) 説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案) 説明 省略第一回目を参照。

#### 質疑応答

(市民局長) たくさんの説明をしていただきましたが、ご質問をいただきたいと思えます。マイクを持っていきますので、発言をお願いします。どなたかおられますか。

(出席者) これは、このままいったら、こういうことになるということですか。

(教育長) 先ほど言いましたような考えで作った案です。この方向で進みたいという気持ちは強いと解釈して下さい。

(出席者) 小学校にしろ、中学校にしろ、よく考えられたとは百も承知で言いますが、私は基本的に、子どもが一番近い学校に通うべきだと思います。再配置案 1 も 2 も、京丹後市は合併したので再配置に取り組みますということでしたが、湊小学校や神野小学校が橘小学校や橘中学校に編成されるという考え方は無いでしょうか。これを見ると、どうも旧 6 町の形式にこだわった再編成なんですけれども。どちらにしても一緒になるところは嫌でしょうけれども。神野のお子さんにしても、湊のお子さんにしても、多分距離的には変わらないし、むしろ橘小学校、中学校が近いお子さんもいらっしゃる。そういった中で、私

が一番近いところに通うのが普通だと思っています。京丹後市が1つになったから考えられている素案とは思えません。そういった考えは無かったのでしょうか。

(教育長) おっしゃることはその通りだと思います。これを考えるとき、地域での今までのことがあるので、旧6町の町域は越えないということで話をしてきました。確かに検討分科会の中でも将来の数を見てみると、またすぐに統合をしなくては人数が確保できないので、近隣の町との交流も必要だという意見の出た分科会もありました。しかし最初の方針に、新築はしない、改築もしない、町域はまたがないということを置いて、今言われたことについて討議をしなかったということです。

(市民局長) 他にありませんか。今の方のように素朴な話をまずしていただいて、討議に入っていたらと思います。思っていることを言っていただく機会なので、よろしくお願いします。

(出席者) 橘中が網野に行ったとき、網野中は何人ですか。

(教育長) 27年度ですが、橘中学校の1年生は16名です。網野中学校は115名です。合計131名で、現在と同じ4クラスになります。橘中学校の2年生は38名。網野中学校が104名。合計142名です。3年生は橘中学生が31名、網野中学生が128名で合計159名です。どの学年も現在と同じ4クラスになります。

(出席者) 教育的、財政的観点等から慎重に検討されたと思いますが、島津小学校を網野北小学校に統合した理由は、主に耐震性ということになっています。ところが、平成26年度で比較してみると、橘小学校が107名に対して、島津小学校は74名です。複式学級等の教育的弊害を考えたときに、島津小学校について人数のことに触れていないということは、地元の反対運動が熱心だからあえて人数には触れていないのでしょうか。

(教育長) 反対があったからということではなく、島津小学校の場合、旧耐震であり優先度も1番ですので、平成24年度に統合する案を出しました。24年度の統合では、そこそこの人数がおりますが、耐震度を優先に書いたということです。

(出席者) 橘小学校は残していただけるのですし、中学校については網野中学校へ統合する場合、島津小学校が残るということは、確率が0ではないんですね。

(教育長) おっしゃるとおり、0ではありません。ただ、いつまでということはありません。橘中学校も27年度にしたのは、10数人のクラスがその頃から出始めるので、そのように書きました。

(出席者) 第1案で、橘中と網野中を平成27年度に統合とあります。今回橘中学校の統合の場合は人数の多い方へとなっていますが、久美浜中学校と高龍中学校も似たような人数ですが、2つとも残すとなっています。それと統合された場合には、網野中学校まで10kmあります。では、久美浜中学校と高龍中学校では何kmあるのか、10kmないと思います。そちらのほうが通学しやすい距離にあっても2校が残っていく、しかし橘中の場合は、雪も積もるような、通学に関して難儀な路線を持ちながらも第1案にするというのは合点がいきません。その点について教えて下さい。

(教育長) 網野中学校の規模が、非常に大きいということがあります。久美浜中学校、高龍中学校は現在2クラスです。人数を見ると久美浜も大きく減っている中で、近い将来に具体的なことを考えていかなければならない時期が来ると思っています。久美浜分科会の会議では、久美浜高校を空けてもらって、そこに中学校を1校にしたら良い、そして久美浜中学校を小学校にしたら良い等の意見も出ていました。現在はそういうことが実現不可能ということで、取り上げませんでした。今言われるような意見も出ておりました。久美浜も1校案でかなり意見を出されていましたが、前述のことや建物の耐震の関係で、そのようには計画できませんでした。

(出席者) 距離の考え方を説明してください。

(教育長) 通学につきましては、橘中と網野中の統合に関しましては、通学支援を考えております。久美浜中と高龍中の距離は5kmです。今年、久美浜中は1年生が63名、高龍中が45名、2年生は2校とも54名、3年生は久美浜中が70名、高龍中は43名です。平成27年度も多い学年は50名、少ないところでも30名を上回っているということもあって、少し期間を置いているということです。

(市民局長) よろしいでしょうか。

(出席者) 分かりました。

(出席者) 人数のことですが、27年度までに橘中も20名を確保したら、やり直しということですか。それは考えてもらえるんですか。

(教育長) 20名を超えた時点で考えていきたいと思えますし、どんな状況であっても皆様方にはきちんと説明をしてからということにしたいですし、ご意見に耳を傾けながらと思っています。

(出席者) 木津、浜詰等各地区で子どもをたくさん作っていただく、またそのためには、よそからでも子どもを引っ張ってきたいと思っております。地元としては、学校がなくなるのは寂しいです。頑張っていくしますので、20名以上確保できましたら、もう一回検討をお願いしたいです。

(市民局長) ありがとうございます。その他の方でございませんか。

(出席者) 失礼します。統廃合するにあたって、学校がなくなるというのがありますし、1つ山を越えて向こうに行くということで、地域としては子どもと触れ合うことが少なくなると思います。そういった時に、学校を地域に開放してとも言われていましたが、具体的には何か考えがあるのかお聞きしたいです。また、仮に統合されたときにはクラブ活動も関わってくると思いますが、授業では教えられない礼儀や物に対する考え方はクラブ活動で培われるところが大きいと思います。そういったことも含めて、具体的なことというのは、考えていらっしゃるでしょうか。

(教育長) 仮に橘中が網野中に行ってしまった場合の、跡地の利用ということでしょうか。子どもの声が聞こえなくなるけれども、それについての対策でしょうか。

(出席者) 今でしたら、通学路であったり、顔を見て分かります。声掛けをしたりとか、行事でも地域の中にあるので、父兄としても協力はしやすいです。遠くになると、どうしてもそういうことがやりにくくなるという兼ね合いもあるので、そういったことも具体的なことを考えておられるのでしょうか。

(教育長) 多くの地区でも同じ意見を出されております。教育委員会がこうしなさい、というようなことはしませんけれども、地域から学校という施設は無くなっても子どもは残る。それで子どもをどうしていったら良いかということで、例えば学校で考えられることと言いますのは、橘中学校という校舎が残る場合、校舎は残らなくても跡地が残る場合、網野中学校区の全生徒が一度にというわけにはいかないと思いますが、学級・学年で、橘で体験的な学習をする、地域の方に社会人講師の形で話をしてもらいながら、地域の田んぼをする等も考えられると思いますし、PTA等の事業で府も地域と一緒にした事業ということで予算面の措置をしながら組んでおります。そうした事業を積極的に取ってきて、地域と子どもとの触れ合う機会を作っていく。それから社会教育関係でも、そういうことを視野に置いた事業を作っていく、公民館等にも話をしていく等の形で、うねりを作るということまでは考えておりますが、具体的にこれをこうするという事までは考えておりません。

(市長) 教育長のおっしゃることに加えて、補足をします。観点は少し違いますが、通学支援の仕方として、当然バスというものがあると思いますけれども、バスをどういう形で運行していくかを地元の人とも相談していかなくてはならないと思います。その点は、一定のバス停のような形で乗せていくのか、旧中学校校辺りまで集まってもらって、そこから運んで行かせていただくような形にするのか、色々な形があると思うんですけれども。今までどおり中学校に

集まってもらって行こうということであれば、そこまでの通学形態は変わってこないの、地域の皆さんとの接点という意味では今とそう変わらないと思います。それがまた違う形になれば、違ってくるとは思いますけれども。それも教育委員会の教育的観点の考え方と地元の皆さんの考え方を調整しながら、させていただくということだと考えております。

(出席者) バスの運行について、中学生になると網野の塾に通っている子もいます。直行・直帰のことしか考えられていないと思いますが、時間的にクラブが終わってそのまま塾に行ったほうが良い場合も出てくると思います。そういう子ども達のフォローは個々にしていただけるのでしょうか。

(教育長) 私は峰山中学校にいましたが、そのような例がありました。その場合は、親からきちんと塾に行くのでバスに乗らないということ言ってもらって、そういう子は塾まで行き、塾には親が迎えに行くというようなことをしました。また、バスに乗らず自転車に乗る子もいました。塾からの帰りは学校とは離れるので、子どもには今から帰るとか、親との連絡をきちんととって心配をかけない様にするような指導はしておりました。網野の塾に行き、塾が済んでからスクールバスで送るという特別な手立てはとれないと思います。

(出席者) 塾の迎えのことではなく、クラブ等で何便もスクールバスが出なくてはならないと思うんです。1便に乗っているはずだった、2便に乗っているはずだったという情報を、きちんと共有出来ているのかということ。例えばこのバスに乗っていないから、他のバスに乗っているだろうと思って、取りこぼしする可能性が起きないようにするような、管理は父兄でしなさいということですか。バスで管理はしてもらえるのですか。

(教育長) 私がおりました中学校でも、2便がありました。クラブをせずに帰る子とクラブをしてから帰る子の2便でした。それぞれが登録制で事情をきちんと担任に言ってする、という形をとっておまして、どこのバスに乗ったか分からないという事象は5年間の中で一度もありませんでした。そういう例も参考にしながら、仮に統合になりましたら、橘中生徒と保護者に確認をしながら、バスの乗り方について注意等をしていきたいと思っております。

(出席者) もう一つ気になるのが、地区の運動会等はどうなるのですか。

(教育長) 地区の運動会は、区でされるので、教育委員会からは口を挟みませんが、この間もそのことについて出ておりました。そのとき来ておられた大宮の方が、学校は無いけれども、地区だけでやっていると言われました。橘でやっておられたら、その時にはこうしたら良いと思います。橘でも網野でもしておられて、片方は学校行事としてやるので翌日は休業日となり、片方は休みにならないというときは困るという話しをしておりました。現在でもそういう

地区はあります。ねじれ現象と言っていますが、例えば峰山小学校の赤坂の子は丹波小の地区の運動会に行きます。ところが代休にはなりません。地区でするときには、お互いの日を揃える等で調整をしていかななくてはならないと思います。運動会の持ち方については区で話し合ってもらったほうがいいと思います。

(市民局長) その他の方？

(出席者) 網野中学校の部活には何がありますか。

(教育長) 野球部、陸上部、サッカー部、ソフトテニス部男女、体操部、バレーボール部女子、バスケットボール部男女、卓球部、吹奏楽部、科学部があります。

(出席者) 距離がこれだけ離れていてクラブをすると遅くなりますが、教育委員会では携帯電話を持たせることに関してはどうですか。

(教育長) 携帯電話は勧めてはいませんが、禁止もしていません。小学生でも持っている子がいるようです。家庭の事情も考えて、禁止が出来ない条件があり、使い方について非常に苦慮しています。2年前に裏サイトの問題があり調査をしました。小学校高学年でもサイトへの書込みをしたことのある子が何割かいました。注意はしていけないといけなけれども、学校としては禁止し辛いところがあり、親にも十分注意しながら認めているところがあります。所持率はよそに比べると少ないです。

(市民局長) 女性の方がたくさん見えておられますが、何かありませんでしょうか。

(出席者) 20人以上がベストだということで、橘中学校は16人になる頃に無くなるということですのでけれども、16人では教育できないのでしょうか。逆に少人数のほうが良いこともあるだろうし、20人以上というのは役所の人間が管理上言うだけだと思います。実際に学校の先生を経験された方の生の声を聞き、それもふまえたうえで、20人を切ると子どものためにならないと、本心からそう思っているのでしょうか。

(教育長) 分かりました。20人以下だから、子どもたちが本当にひもじい思いをしているかと言えば、そんなことはないと思います。小規模校ならではの良い事もたくさんあると思います。ただ、網野の場合も橘中学校をどうするかということで、検討分科会でも大変苦勞されました。全部で12回の会を持たれたのですが、数回目までは、まとまらないということで報告を受けておりました。6回目位に中間報告をいただきました。その中には「こうです」というまとめはなくて、統合の賛成の意見はこういうのがあった、反対の意見はこういうのがあったと意見を並べておられますので、少し紹介しておきます。

#### 統合賛成の意見

- ・ 中学校に関しては統合しても良いのではないかと。
- ・ 生徒数の推移を見ても、将来的に 30 人学級になっても、橘中学校は厳しい。今決心しても良いのではないかと思う。
- ・ 今の良さはあるけれども、年が経てば変わっていくと思う。統合しても新しい良さは見込める。
- ・ 年々生徒も減少するし、保育所・小・中と長く一緒にいるより、高校まで待たずに広い範囲で一緒になっても良いと思う。
- ・ 網野中学校と橘中学校の違いは、教職員の数だと思う。教職員の数から見て、専門外の授業を多く受け持ってもらっていると思う。
- ・ 地域に子どもの声が聞こえなくなるのは寂しいが、大人の都合で教育の機会均等を壊すべきではない。

#### 統合反対（現状維持）の意見

- ・ 橘と網野とは峠を抱えていることから、自由に行き来出来ない感じを持つ。
- ・ 峠は負担だ。今回教育委員会は町を越える統合は無いとの考えだが、将来再び町を越える話になる。それを考えると今急ぐ必要はないと思う。
- ・ 橘は保育所から仲間が変わる刺激も少ないが、素朴なまとまりがあると感じる。現実的に色々な話を聞くと、やがてはとは思いますが、10 年近くは確保出来る。急がなくても良いと思う。
- ・ 中学校がまとまれば、通学に時間がかかる。今でも部活終了後に塾に行ったりして、子どもに余裕がないが、帰宅時間が遅くなれば、ますます余裕が無くなる。

20 人だから授業が出来ないということはなく、活発にやっている学校もあります。小学生もですけれども、コミュニケーション能力等が鍛えられていくことが大きいということを考えると、ある程度の規模が必要だという考えに至っております。

（市民局長） その他の方、何かありませんか。たくさんの意見をいただいておりますが、時間も参っておりますので、積極的に聞いていただきたらと思います。

（出席者） 統合時に中学 3 年生で、今まで橘に通っていた子が何人かいくわけなんですけれども、そういうところのフォローは考えておられるのでしょうか。

（教育長） 中学校より小学校のほうが再配置をする所が多いので、そのような問題がたくさんあります。今具体的に進みかけている学校もあるんですけれども、校長先生どうし、PTA どうしの話し合いを持つこと。中学生と小学生で

は違いますので、同じようなことには出来ないと思いますけれども、行事の時に招待して交流学習をする、出来れば学年ごとの取組みを何回かしながら、お互いが知り合いになっていく等のことを意図的に組んでいく、といったことを考えていかななくてはならないと思っております。網野中学校と橘中学校の人数に差があるので、一緒に集まって何をすることが良いかは分かりませんが、合唱際の見学等、方法は色々取れると思います。今後、学校と一緒に考えていきます。また、両方のPTAと一緒に、子どもを迎えるという気持ちになっていただくのも大事だと思います。PTAの対策も考えていく必要があると考えています。

(出席者) 例えば中学校3年生で網野中学校に行くことになりましたが、クラブ活動で野球は9人、バレーは6人、サッカーは11人とレギュラーの数が決まっています。レギュラーだった子がレギュラーから外れるということもありますね。その年だけは、網野中学校は2チームだとかいう配慮はしていただけるのでしょうか。

(教育長) 団体のゲームは、中体連というものがあり、そこで対抗のやり方を決めています。学校で予選をして出るのか等、私はそこまで把握しておりませんので、中体連に聞いておきます。すみませんでした。

(市民局長) たくさんの貴重なご意見や質問をいただきました。ご質問等無いようなので、終わらせてもらってよろしいでしょうか。

閉会 21 : 00